

二 猶豫ノ期限ヲ得サル證人ハ出廷シ得ズ雖モ自ラ正當ノ證人タル
 一 辯護セサル者ハ事實參考ノ證人タルニ過キス又正當ノ辯護ヲ受
 ケサル者ト雖モ開廷ノ日時ニ出廷シタル者ハ正當ノ證人タルヲ得
 ヘキ一 第三百二十五條第二項ニ規定セリ此規則ハ明文ナシト雖
 モ豫審ヲ用ヒスシテ直ニ公判ニ付シタル輕罪ノ證人ニ付テモ亦之
 ヲ適用セサル可カラス何トナレハ違警罪ト輕罪トヲ問ハス直ニ公
 判ニ付セラレタル被告人ハ開廷ノ日時ニ証人ニ對シ正當ノ呼
 出ヲ爲ス一能ハサル場合アル可シ輕罪ノ被告人ニシテ此規則ノ利
 益ニ預カラサルノ理由ナカル可シ重罪及ヒ豫審ヲ受ケタル輕罪ノ
 被告人ハ開廷前其証人タル可キ者ヲ豫備スルニ充分ノ猶豫アル可
 キヲ以テ此規則ヲ適用スルニ及ハサルモラトス

◎原被證人氏名ノ通知

一 原告被告互ニ其呼出ス可キ証人ノ氏名ヲ豫メ通知スルハ辨論ノ豫

備ヲ爲スニ最モ必要ナル可シ然レモ重罪ニ付テノニ第三百八十三
 條ニ証人氏名目録ヲ交換ス可キ規則アル輕罪違警罪ニ付テハ元費
 ト手數トヲ増加スル而モ大ニ時日ヲ遷延シ開廷ノ期限ニ牴觸ス
 ルヲ以テ此規則ヲ適用シ難シ然レモ同條ニ明文ナシト雖モ重罪事
 件ニ關スル民事擔當人ニ付テハ之ヲ適用セサル可カラス

二 重罪事件ニ付キ原被證人ノ氏名目録ヲ交換スルノ手數ハ第三百八
 十三條第二項ニ明文アリテ第一項ニ明文ナシト雖モ並ニ書記官責
 任ナリトス若シ第三百八十三條ノ規則ニ背キ豫メ氏名ヲ通知セサ
 ル証人ニ付キ異議ノ申立アリタルモハ其通知ヲ爲ス可キ爲メ一日
 公判ヲ延期シ又第三百八十四條ノ規則ニ從ヒ事實參考ノ証人トシ
 テ其陳述ヲ聽ク可シ但事實參考ノ証人費用ハ訴訟ノ勝敗ニ拘ハラ
 ス其呼出ヲ爲シタル者之ヲ擔當セサル可カラス

第三百二十六條 書記ハ各事件毎ニ訴訟關係人ノ氏名ヲ

呼立ツ可シ若シ其呼立ニ應セサル時ハ他ノ事件ノ裁判ヲ終リタル後其事件ヲ裁判ス可シ

○當日裁判ス可キ事件ノ呼立

一 書記ハ順序ヲ追ヒ一事件ノ裁判ニ取掛ル毎ニ其訴訟關係人ヲ公廷ニ出頭セシムル爲メ其氏名ヲ呼立ツ可シ書記ノ呼立ヲ受繼キ使テ大聲ヲ以テ呼入ル、一從前ノ慣行ニ同シ

二 呼出ニ應セサルハ出廷セサル者ト看做シ闕席裁判ヲ爲サ、ル可カラス然ルニ他ノ事件ノ裁判ヲ終ルマテ之ヲ猶豫スルハ法律ノ恩惠ナリトス

三 第二ノ規則ハ輕罪又ハ重罪ノ公判ニモ之ヲ適用スルヲ得シ第

二ノ規則ハ輕罪又ハ重罪ノ公判ニ之ヲ適用スルヲ得ス何トナレハ重罪輕罪ハ違警罪ノ如ク必ズ當日中ニ數件ニ裁判ヲ終ルヲ難カル可シ

第三百八十六條 裁判長ハ開廳ノ日ニ當リ公廷ニ於テ陪

席判事檢察官ノ面前ニテ開廳ス可キヲ陳述ス可シ但被告人ヲ呼出ス可カラス

○重罪裁判所ノ開廳式

一 重罪裁判所ハ開立裁判所ナルヲ以テ開廳式アリ本條ニ裁判長トアルハ裁判所長トスルヲ適當ナリトス何トナレハ開廳ス可キヲ陳述スルハ裁判長ノ職務ニ非スシテ裁判所長ノ職務タル可キヲ辨解ヲ待タサル可シ

二 開廳式ハ之ヲ公行ス書記モ亦列席ス可シ然レハ裁判ス可キ事件ニ關セサルヲ以テ被告人ノ出廷ヲ要セス

第三百八十七條 裁判長辨論二日以上ニ渉ル可シト思料

シタル時ハ重罪裁判所々在ノ地ノ裁判所判事一名ヲ以テ豫備陪席判事ト爲スヲ得

○豫備陪席判事ヲ設クルノ理由

一 公判判事ハ直接ノ視聽ニ因テ判決スルヲ原則トス即チ第三百十八條第二項ニ辨論數日ニ涉ルキハ同一ノ裁判官出席シタルヲ公判始末書ニ記載ス可キト決定スル所以ナリ若シ辨論二日以上ニ涉リタル場合ニ於テ組合判事中疾病又ハ事故アリテ出席スルヲ能ハサル者アルキハ公判ヲ延期スルニ非ザレハ他ノ判事ヲ加ヘ新ニ辨論ヲ爲サ、ル可ガラス故ニ豫備陪席判事ヲ設ケ最初ヨリ出席セシメ組合判事ノ補闕員トス

二 豫備陪席判事ハ陪席判事ト同一ノ權ヲ有ス然レモ判決ニ干預スル事ヲ得ズ本條ノ規則ハ控訴裁判所以上ニ於テ之ヲ適用スルヲ得ルニシテ輕罪裁判所ニ於テハ第五十七條ノ規則ニ依リ判事補ヲ以テ當然補闕員ニ充ツルヲ得ヘシ

第三百二十七條 違警罪裁判官ハ最初ニ被告人ノ氏名年

齡身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可シ
官吏ノ作りタル調書又ハ申立書アル時ハ書記之ヲ朗讀ス可シ

第三百八十八條 裁判官檢察官及ヒ書記各其席ニ就キタル後即時ニ訊問及ヒ辨論ニ取掛ル可シ

裁判長ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可シ

若シ其答辭ト豫審中ノ陳述ト齟齬アリト雖モ公訴狀ニ記載シタル被告人ニ相違ナキ時ハ引續キ辨論ヲ爲ス可シ

第三百八十九條 書記ハ呼出シタル証人ノ氏名ヲ呼立ツ可シ

其呼立ニ應シタル証人ハ扣席ニ退カシメ陳述ヲ爲スニ
當リ順次ニ之ヲ呼入ル可シ

○公判手續第一段落開廷及ヒ辨論前ノ訊問

- 一 第三百八十八條第一項ニ裁判官檢察官及ヒ書記各其席ニ就キタル後即時ニ訊問及ヒ辨論ニ取掛ル可シトアルハ裁判構成ノ規則ニ從ヒ公廷ノ班列既ニ定マリタル以上ヲ謂フ被告人及ヒ民事原告人ノ如キハ必スシモ出廷ヲ期ス可カラス故ニ構成上三官列席シタルハ直ニ開廷シタルモノトス此規則ハ輕罪及ヒ違警罪ノ公判ニモ亦之ヲ適用セサル可カラス
- 二 裁判長ハ最初ニ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ノミヲ問フニ非ス被告人ノ身上ニ關スル一切ノ問ヲ爲スヲ得ヘシ之ヲ辨論前ノ訊問トス蓋シ單ニ被告人ノ人違ナキヨリ認ムル爲メノミナラス犯罪ノ性質ヲ組成スルノ原因ヲ推究スルニ有益ナルヲアル可シ但直接ニ犯罪ニ關スル問ヲ爲ス可カラス

シ但直接ニ犯罪ニ關スル問ヲ爲ス可カラス

三 第三百八十八條第二項ニ若シ其答辭ト豫審中ノ陳述ト齟齬アリト

雖モ公訴狀ニ記載シタル被告人ニ相違ナキ時ハ云々トアルハ其氏名年齢等豫審中ノ申立ニ反異スル場合ナリトス公訴狀ハ固ヨリ豫審終結ノ言渡書ニ因リ之ヲ作ル可キヲ以テ其氏名年齢等豫審中ノ申立ト同一ナルハ言ヲ待タス故ニ本文公訴狀ニ記載シタル被告人云々トアルハ公訴ニ係ル被告人云々ノ文意ナリトス此規則ハ違警罪又ハ輕罪ノ公判ニ於テ被告人ノ答辭ト調書又ハ申立書ニ記載スル所ト齟齬アリタル場合ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ

四 被告人ノ氏名年齢等辨論前ノ訊問ヲ終リタル後書記第三百八十九

條ニ從ヒ出頭シタル原被証人ノ氏名ヲ呼立テ一應公廷ニ出席セシメ更ニ其扣席ニ退カシム証人ノ扣席ハ公廷外ニシテ其扣席ニ在ル間ト雖モ第二百八十八條ノ規則ニ從ヒ互ニ言語ヲ接スルヲ許サ

ス蓋シ辨論前一應原被証人ヲ公廷ニ呼入ル、ハ其出頭シタルヤ否
ヲ檢スル爲メナリ若シ出頭セサル者アルハ第二百九十三條以下
ノ規則ニ從ヒ豫メ其處分ヲ爲サ、ル可カラス故ニ第三百八十九條
ノ規則ハ便宜ノ方法ニ從ヒ輕罪又ハ違警罪ノ公判ニモ亦之ヲ適用
ス可シ

五 第二百六十三條ニ於テ公行ス可キ手續ノ第二項ニ說明シタル如ク
辨論前ノ訊問ニ屬スル法式ヲ以テ公判手續ノ第一段落トス即チ第
三百二十七條第三百八十八條第三百八十九條ノ手續是ナリ但第三
百二十七條第二項第三項ハ公判手續ノ第二段落即チ辨論ノ法式ニ
屬ス故ニ後ノ數條ニ於テ之ヲ說明ス可シ

第三百二十八條 違警罪裁判官ハ被告人ニ被告事件ヲ承
認スルヤ否ヲ訊問ス可シ

若シ被告人代人ヲ以テ白狀ヲ爲ス時ハ其署名捺印シタ

ル書面ヲ差出ス可シ

第三百二十九條 被告人ノ白狀アリタル時ハ他ノ証憑ヲ
差出スニ及ハス但裁判所ニ於テハ檢察官民事原告人ノ
請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ差出サシムルヲ得
若シ白狀ナキ時ハ原被ノ証人ヲ訊問シ其他証憑アル時
ハ之ヲ差出ス可シ

第三百五十二條 檢察官ハ裁判長ヨリ被告人ノ氏名年職
齡業住所及ヒ出生ノ地ヲ問ヒタル後被告事件ヲ陳述ス
可シ

民事原告人ハ被告事件ヲ證明ス可シ
調書又ハ申立書アル時ハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ次
ニ原被証人ノ陳述ヲ聽キ且證據物件ヲ被告人ニ示シ辨
解ヲ爲サシム可シ

被告人及ヒ民事擔當人ハ答辨ヲ爲ス可シ

第三百九十條 裁判長ハ書記ヲシテ公訴狀ヲ朗讀セシム

ルニ付キ注意シテ聽ク可キヲ被告人ニ告知ス可シ

第三百九十一條 裁判長ハ書記前條ノ朗讀ヲ終リタル後

被告人ヲ訊問ス可シ

被告人豫審中ニ白狀シタル事件ヲ確認セス又ハ之ヲ取

消サントスル時ハ其事由ヲ辨明セシム可シ

被告人ノ白狀アリト雖モ仍ホ其取調ヲ爲サル可カラ

ス

○公判手續第二段落事實ノ辨論第一檢察官ノ訟告及ヒ被

告人ノ訊問

一事實ノ辨論ハ刑事原告人タル檢察官ノ訟告即チ公廷ニ於テ被告事
件ノ始末ヲ公言スルニ始マル重罪ニ付テハ第三百九十條ニ書記ヲ

シテ公訴狀ヲ朗讀セシム可キヲ定メ輕罪ニ付テハ第三百五十二
條ニ違警罪ニ付テハ第三百二十七條第二項以下ニ調書又ハ申立書
アルキハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ又檢察官ハ被告事件ヲ陳述ス
可キヲ定ム蓋シ輕罪違警罪ニ付キ官吏ノ作りタル調書又ハ申立
書ハ重罪ニ付テハ公訴狀ト看做スト夫得ヘシ第三百二十七條ニ依
ルキハ調書又ハ申立書ヲ朗讀シタル後檢察官被告事件ヲ陳述シ第
三百五十二條ニ依ルキハ檢察官被告事件ヲ陳述シタル後調書又ハ
申立書ヲ朗讀スルニ似タリ畢竟輕罪ト違警罪トヲ問ハス朗讀ヲ爲
シタルキハ陳述ヲ爲サルモ可ナリ陳述ヲ爲シタルキハ朗讀ヲ爲
サルモ可ナリ故ニ朗讀ト陳述ト其前後ヲ定ムルハ檢察官ノ隨意
ナリト雖モ陳述ハ朗讀ノ足ラサルヲ補フニ有益ナルヲ以テ朗讀ノ
後陳述ヲ爲スハ頗ル体裁ヲ得タルモノトス重罪ニ付テハ公訴狀ニ
被告事件ヲ詳記スルヲ以テ朗讀ノミニテ陳述ヲ用フルノ明文ナシ

ト雖モ朗讀ノ後陳述ヲ爲スモ決シテ不可ナルヲナカル可シ
 二 輕罪ニ付テハ第三百五十二條ニ檢察官被告事件ヲ陳述スルノ後民
 事原告人被害事件ヲ證明ス可キノ明文アリ違警罪及ヒ重罪ニ付テ
 ハ明文ナシ民事原告人ハ固ヨリ被告事件ヲ詳知ス可シト雖モ證人
 タルヲ得サルヲ以テ唯裁判長ノ職權ヲ以テ事實參考ノ爲メ何時
 ニテモ其陳述ヲ聽クヲ得ヘキハ勿論ナリ然レモ佛法ノ如ク輕罪
 ニ付テハ民事原告人直ニ被告人ヲ公判ニ呼出スヲ得ヘキハ民
 事原告人ナシテ最初ニ訴訟ノ事件ヲ證明セシメサルヲ得スト雖モ
 我治罪法ニ於テハ檢察官ニ非サレハ公訴ヲ行フヲ許サス且公訴
 ト私訴トハ辨論ヲ各別ニスルノ主義ナルヲ以テ實際第三百五十二
 條第二項ノ手續ハ第三百五十三條第一項ノ手續ヲ終リタル後之ヲ
 爲サ、ル可カラス

三 第三百二十八條第一項ニハ違警罪裁判官ハ被告人ニ被告事件ヲ承

認スルヤ否ヲ訊問ス可シトアリ第三百九十一條第一項ニハ裁判長
 ハ云々被告人ヲ訊問ス可シトアリ共ニ同一ノ手續ナリト雖モ違警
 罪ニ付テハ單簡ニ被告事件ヲ承認云々ノ一語ヲ掲載セリ然レモ時
 宜ニ依リ承認云々ノ訊問ノミニ止マラサル可シ此規則ハ輕罪ノ公
 判ニモ之ヲ適用セサル可カラス

四 違警罪ニ付テハ第三百二十八條第二項ニ若シ被告人代人ヲ以テ白
 狀ヲ爲ス時ハ其署名捺印シタル書面ヲ差出ス可シトアリ蓋シ勾留
 ヲ受ケサル被告人ハ書面ヲ以テ白狀ヲ爲スヲ得ヘシ代人ヲ以テ
 白狀ヲ爲スヲ得ス白狀ノ効力ヲ重スル所以ナリ法文ニ被告人代
 人ヲ以テ白狀ヲ爲ス時ハ云々トアルニ因リ代人ヲシテ白狀ヲ爲サ
 シムルヲ得ヘキニ似タリト雖モ其代人ハ被告人ノ署名捺印シタ
 ル白狀書ヲ持參スル迄ニテ白狀ノ代人ニハ非サルナリ本項ノ規則
 ハ輕罪ノ被告人ト雖モ勾留ヲ受ケサル者ノ白狀ニ付テハ之ヲ適用

スルヲ得ヘシ

五 白狀ハ証憑ノ最モ顯著ナルモノトス違警罪ニ付テハ第三百二十九條第一項ニ裁判所ノ職權又ハ檢察官民事原告人ノ請求ニ依リ他ノ証憑ヲ要スルニ非サレハ白狀ノミヲ以テ直ニ事實ノ取調ヲ終結ス可キトテ定ム重罪ニ付テハ第三百九十一條第三項ニ白狀ノミヲ以テ事實ノ取調ヲ終結ス可カラサルヲ定ム輕罪ニ付テハ明文ナキニ因リ違警罪ノ規則ニ從フモ不可ナルトナキニ似タリ然レモ取調ノ懇切ヲ要スルノ點ヨリ論スルキハ罰金ノ刑ニ該ル可キ者ヲ除クノ外重罪ノ規則ニ從フト當然ナリ

六 第三百九十一條第二項ニ被告人豫審中ニ白狀シタル事件ヲ確認セズ又ハ之ヲ取消サントスル時ハ其事由ヲ辨明セシム可シトアリ被告人自ラ白狀シタルトテ自ラ取消スルヲ得ルハ言ヲ待タズ白狀ハ自由任意ニ非サレハ其効力ヲ有セス然レモ取消ノ事由ヲ辨明セシ

ムルハ取調上最モ必要ナルトアル可シ單ニ豫審中ノ白狀ノミカラズ公判中ノ白狀ト雖モ亦然リ此規則ハ輕罪違警罪ニモ亦之ヲ適用セサル可カラズ

第三百九十二條 裁判長ハ前條ノ訊問ヲ終リタル後証憑ヲ差出スニ從ヒ其証憑ニ付キ辨解ヲ爲シ且自己ノ利益ヲ爲ル可キ反証ヲ差出スヲ得可キトテ被告人ニ告知ス可シ

第三百九十三條 裁判長ハ原告証人陳述ヲ終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フ可シ

第三百九十四條 証人ハ陳述ヲ爲シタル後其扣席ニ留ル可シ但裁判長ヨリ退廷ノ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラズ

陪席判事檢察官被告人及ヒ民事原告人ハ更ニ証人ヲ訊

問スルコト又証人ヲシテ他ノ証人ト對質セシムルコトヲ請
求スルヲ得

裁判長ハ職權ヲ以テ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得
第三百九十五條 裁判長ハ証人愛憎畏懼ノ念ヲ生シ被告
人ノ面前ニ於テ充分ナル陳述ヲ爲スコトヲ得サル可シト
思料シタル時ハ檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職
權ヲ以テ其証人ノ陳述中被告人ヲ退席セシムルコトヲ得
裁判長ハ証人陳述ヲ終リタル後彼再ヒ被告人ヲ公庭ニ呼
入レ其陳述シタル條件ヲ告知シ且被告人ニ意見アル時
ハ之ヲ申立シム可シ

○公判手續第二段落事實ノ辨論第二証憑ノ取調

一 違警罪ニ付テハ第三百二十九條第三項ニ若シ自狀ナキ時ハ原被
証人ヲ訊問シ其他証憑アル時ハ之ヲ差出スコシトアリ輕罪ニ付テ

ハ第三百五十二條第三項ニ次ニ原被証人ノ陳述ヲ聽キ且證據物件
ヲ被告人ニ示シ辨解ヲ爲サシム可シトアリ又第四項ニ被告人及ヒ
民事擔當人ハ答辯ヲ爲スコシトアリ重罪ノ手續ニ比ズレハ共ニ法
文單簡ニシテ盡サ、ル所アリ故ニ重罪ノ手續ヲ說明シテ輕罪違警
罪ノ説明ニ及ホスコシ

二 証憑ノ取調ニ付テハ其証憑タル可キ事物ヲ提出スルニ隨ヒ被告人
一々辨解ヲ爲シ且反對ノ証憑タル可キ事物ヲ提出スルコトヲ得第一
裁判官檢察官ノ訊問アル毎ニ事實ヲ陳述シ第二證人鑑定人ノ陳述
アリタル毎ニ辨護ヲ爲ス等是ナリ第三百九十二條ニ裁判長ハ証憑
取調前被告人ニ証憑ヲ差出スニ從ヒ辨解ヲ爲シ反證ヲ出スノ權ア
ルコトヲ告知ス可キコトヲ定ム又此告知ヲ爲シタリト雖モ裁判長ハ證
人鑑定人等陳述ヲ終リタル毎ニ被告人ニ辨解アリヤ否ヲ問ヒ又ハ
其証憑物件ニ付キ辨解アリヤ否ヲ問フ可シ原告證人ノ陳述ニ付テ

ハ第三百九十三條ニ明文アリ證憑物件ニ付テハ輕罪ニ付キ第三百五十二條第三項ニ明文アリ第三百九十二條第三百九十三條ニ定メタル告知ハ輕罪又ハ違警罪ノ公判ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ然レモ若シ此告知ナキハ重罪ニ付テハ異議ヲ申立テ上告ノ理由トナルモ輕罪違警罪ニ付テハ明文ナキヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

三 證人ハ陳述ヲ爲シタル後ト雖モ裁判長ノ免許ヲ得ルニ非サレハ直ニ歸宅スルヲ得ス蓋シ更ニ之ヲ訊問シ又ハ對質セシムルヲアル可シ又陳述ヲ爲シタル後ト雖モ直ニ證人扣席ニ退カサルヲ得ス蓋シ公廷ニ在テ傍聽スルルキハ更ニ之ヲ訊問シ又ハ對質ヲ爲サシムルニ當リ前供ヲ反異シ又ハ脩飾スルヲアル可シ第三百九十四條第一項ノ規則ハ輕罪又ハ違警罪ノ公判ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ

四 證人陳述ヲ終リタル後更ニ之ヲ訊問シ又ハ對質セシムルハ陪席

判事檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ請求スルヲ得又裁判長ハ職權ヲ以テ其處分ヲ爲スヲ得ヘシ第三百九十四條第二項第三項ノ規則ハ輕罪又ハ違警罪ノ公判ニモ之ヲ適用セサル可カラス

五 公判中ハ被告人公廷ヲ離ル、トヲ得サルハ對審ノ原則ナリトス就中證人ノ陳述ニ付テハ辯護ノ意見アル可キヲ以テ之ヲ聽カシメサル可カラスト雖モ證人タル者ト被告人トノ間懇親ナルカ恩義アルカ情愛アルカ宿怨アルカ又ハ證人タル者後患ヲ懼ル、カノ場合ニ於テハ其陳述中被告人ヲ別席ニ退カシムルヲ得ヘシ然レモ被告人ヲシテ辯護ノ權ヲ失ハシメサル爲メ證人陳述ヲ終リタル後被告人ヲ公廷ニ呼入レ其陳述ノ條件ヲ告知シテ辨解ヲ爲サシム可シ即チ第三百九十五條ノ規則ハ輕罪以下ノ公判ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ但違警罪ノ如キハ證人愛憎畏懼ノ念ヲ生シ充分ナル陳述ヲ爲スヲ得サル場合ハ甚々稀ナル可シ

第三百九十六條 裁判長ハ第三百條ニ定メタル手續ノ終

リタル後公訴ニ付キ辯論ノ終結シタルトテ言渡ス可シ

○事實ノ辯論終結ノ言渡

一 公訴ノ辯論ヲ分テ事實ノ辯論及ヒ法律ノ辯論トス輕罪以下ノ公判

ニ付テハ事實ト法律トヲ區別シテ辯論終結ノ言渡ヲ爲サザルモ妨

ケナカル可シ重罪ニ付テハ本條ニ之ヲ區別ス可キトテ定ム然レモ

本條ノ文義ハ頗ル穩當ナラス何トナレハ第三百條ノ手續ヲ終リタ

ル後云々トアリ第三百條ハ私訴ノ辯論終結マテノ手續ナリトス且

公訴ニ付キ辯論ノ終結シタルト云々トアルニ因リ本條ハ事實ノ辯

論及ヒ法律ノ辯論共ニ終結シタル場合ナルニ似タリト雖モ法律ノ

辯論未タ終結セサル場合ナルトハ第三百九十八條ニ定メタル手續

ヲ以テ判然ナル可シ故ニ本條ノ法文ハ證憑調濟ノ後裁判長ハ事實

ノ辯論終結ノ言渡ヲ爲ス可シト改正アルヲ適當ナリトス

二 事實上法律トヲ問ハス總テ公訴ノ辯論既ニ終リタルキハ其旨ヲ言

渡シ私訴ノ辯論既ニ終リタルキモ亦其旨ヲ言渡ス可キハ當然ナリ

トス公訴ニ付キ事實ノ辯論ト雖モ特ニ終結ノ言渡ヲ爲スハ舊草案

ノ如ク陪審ヲ用ヒタル公判ニ於テハ最モ必要ナリトス即チ佛治罪

法第三百三十五條ニ基キ制定シタルモノトス此法律ニ於テハ陪審

ヲ除キ仍ホ本條ヲ存ス故ニ其効用ノ薄キヲ覺ス

第三百三十條 檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述ス

可シ

民事原告人ハ被害事件ヲ證明シ及ヒ要償ニ付キ意見ヲ

陳述ス可シ

被告人民事擔當人又ハ其代人ハ答辨ヲ爲ス可シ

第三百五十三條 檢察官ハ法律ヲ適用ニ付キ其意見ヲ陳

述ス可シ

民事原告人ハ要償ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辨ヲ爲スヲ得

第三百九十八條 辨論終結ノ言渡アリタル時ハ檢察官法

律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ辯護人ハ檢察官ノ意見其當ヲ得サルヲ辨

論スルヲ得

第三百九十九條 前條ノ辨論ヲ終リタル後民事原告人ハ

私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ被告人辯護人及

ヒ民事擔當人ハ答辨ヲ爲スヲ得

檢察官ハ私訴ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

裁判所ニ於テハ私訴ノ辨論ヲ延期スルヲ得但閉廳前

之ヲ判決ス可シ

○公判手續第三段落法律ノ辨論

一 第三百三十條第一項第三百五十三條第一項第三百九十八條第一項

ハ總テ同文ナリ唯第三百九十八條第一項ニハ辨論終結ノ言渡アリ

タル時ハ云々トアリ即チ重罪輕罪違警罪ニ拘ハラス事實ノ辨論ヲ

終リタル後檢察官法律ノ適用ヲ請求スルニ付キ被告事件ヲ約言シ

其證據ヲ辨明セサル可カラス

二 被告人及ヒ辯護人ハ被告事件ノ約言證據ノ辨明及ヒ法律ノ適用ニ

付キ檢察官ノ請求不當ナルヲ答辨スルヲ得但第三百三十條第

三百五十三條ニ依ルキハ檢察官意見ヲ陳述シタル後民事原告人陳

述ヲ爲シ然ル後被告人及ヒ民事擔當人等答辨ヲ爲スニ似タリ然レ

モ兩條共ニ第三項ハ第一項第二項ニ聯用シタルモノニシテ即チ檢

察官陳述ヲ爲シタル後被告人等答辨ヲ爲シ又民事原告人陳述ヲ爲

シタル後被告人等答辨ヲ爲ス可キノ文意ナリトス第三百九十九條

第三百九十九條ハ其順序判然タリ

三 檢察官被告人等互ニ復答スルヲ得又辨論ノ最終ニハ被告人又ハ辨護人オシテ發言セザルモ此ノ通則第三百條ニ明文アリ同條ニ證憑調濟後ノ手續ナリ雖モ公訴ノ辨論ト私訴ノ辨論トヲ混淆シテ記載セリ宜ク注意セサル可カラス

○公判手續第四段落私訴ノ辨論

一 公訴ニ付キ法律ノ辨論ヲ終リタル後民事原告人被害事件即チ犯罪ニ因リ生シタル一切ノ損害ヲ陳述シ被告人辨護人及ヒ民事擔當人ハ管辨ヲ爲シ原告被告共ニ證憑及ヒ證人ヲ差出シ又ハ裁判所ニ於テ鑑定ヲ爲シシムル等總テ通常民事ノ手續ニ異ナルヲナカル可シ
第三百三十條第二項以下第三百五十三條第二項以下第三百九十九條第一項ハ各少シク文異ナルモ意同シ
二 私訴ニ付テハ檢察官毫モ訴訟關係人タルノ權ヲ有セス單ニ裁判監察人タルノ權ヲ有スルニ過キス故ニ私訴ノ辨論ヲ終リタル後其意

見ヲ陳述スルニ止ル私訴ノ原告被告ハ檢察官ノ意見ニ對シ辨論スルヲ得私訴ニ付キ檢察官意見ヲ陳述スルハ重罪ニ付キ第三百九十九條第二項ニ明文アリ又上告ノ公判ニ付テモ第四百二十五條末項ニ明文アリ此規則ハ輕罪違警罪ノ公判ニモ之ヲ適用セサル可カラス

○私訴ノ辨論延期

一 公訴ノ判決アルマテ私訴ノ辨論ヲ延期スルヲアルハ固ヨリ說明ヲ待タサル可シ第三百九十九條末項ハ公訴ノ判決後ニ私訴ノ辨論ヲ延期シ刑事裁判所ニ於テ公訴ト私訴ト別ニ裁判ヲ爲スヲ得ヘキヲ謂フ此規則ハ輕罪又ハ違警罪ノ公判ニモ之ヲ適用スルヲ得シ然レモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付テハ頗ル被告人ノ爲メ不便ナルヲアリ注意セサル可カラス何トナレハ公訴ニ付キ刑ノ言渡確定シタルモハ被告人其執行ヲ受ク可キヲ以テ別段代人ヲシテ

私訴ノ答辨ヲ爲サシメサル可カラス就中重罪ノ刑以言渡ヲ受ケタル者ハ治産ノ禁ヲ受ク可キヲ以テ幼年者ト均シク自ラ私訴ノ對手人ト爲ルヲ得サル可シ

二 重罪裁判所ニ於テ私訴ヲ延期スルモ其閉廳前之ヲ判決ス可キノ明文アリ頗ル私訴ヲ裁判スルニ付テノ差問ノ期限ト抵觸スルコトアル可キヲ覺フ高等法院ニ於テモ亦同シ故ニ差問ノ期限閉廳後ニ及フ下アラハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判セシムルヲ以テ最モ條理ニ適スルモノトス其始審終審ハ通常ノ規則ニ從フ可キハ言フ待タサルナリ輕罪裁判所違警罪裁判所ノ如キハ常立ナルヲ以テ此ノ如キ不都合ナガル可シ

第三百五十七條 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新ナル証人ヲ呼出シ鑑定人ヲ命シ若クハ臨檢

ヲ爲スヲ得但是等ノ處分ヲ爲スニ付テハ第三編第三章ニ定メタル規則ニ從フ
又豫審ヲ經サル事件ニ付テハ豫審判事ヲシテ其指示スル所ノ條件ニ付キ取調ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムルヲ得

第三百九十七條 檢察官及ヒ被告人ハ辨論中ニ發見シタル條件ニ付キ豫審ヲ求ムルヲ得裁判所ニ於テ其請求ヲ認可シタル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシム可シ
第三百五十七條第一項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス
第四百二條 辨論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシ

テ豫審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判ス可シ

○辨論中新ナル証人ヲ訊問シ新ニ鑑定ヲ命シ又ハ臨檢ヲ必要トスル場合ノ處分

- 一 訴訟關係人ハ對手人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ナル証人ヲ呼出ス
- 一 得サル可シ重罪ニ付テハ第三百八十四條ニ明文アリ輕罪以下ト雖モ新ナル証人ヲ呼出スニ付テハ辨論ヲ中止セサル可カラス且
- 一 對手人ハ其証人ニ對スル辨護ノ豫備ヲ爲サ、ル可カラス故ニ重罪ト輕罪以下トヲ問ハス對手人ノ承諾ヲキキハ裁判所ノ職權ヲ以テ事實參考ノ爲メ之ヲ呼出スニ過キサル可シ然レモ最初呼出テ請求シタリト雖モ出廷ス可カラサル障礙アリタル証人其障礙ノ除却シタル時辨論中新ナル犯罪事件發覺シタル時同一ノ事件ト雖モ新ニ發覺シタル點ニ付キ辨論ヲ必要トスル時等ハ此限ニ在ラサル可シ

- 二 鑑定ヲ命シ及ヒ臨檢ヲ爲スハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アルト否トヲ問ハス總テ裁判所ノ權内ニ屬ス其手續ハ豫審ノ規則ニ從フ可キハ第二百八十三條ノ說明ニ依テ判然タル可シ然レモ豫審ニ於テハ第三百五十八條第二項ニ又檢事ノ請求アリタル時ハ如何ナル場合ト雖モ臨檢ス可シトアリト雖モ公判ニ於テハ原告人ニシテ被告
- 人ヨリ超越シタル權利ヲ有ス可カラサルニ因リ此規則ヲ適用シ難シ其他豫審ノ規則ヲ適用スルニ付テハ少シク斟酌セサル可カラサルナル可シ違警罪ノ公判ニ付テモ亦同シ

○公判ニ於テ豫審ヲ必要トスル場合ノ解

- 一 辨論中附帶ノ犯罪發覺シタル時但第三百五十七條第二項ニハ豫審ヲ經サル事件ニ付テハ云々トアリ即チ豫審ヲ用ヒスシテ直ニ公判ニ付シタル事件ノミナラス新ニ發覺シタル附帶ノ犯罪ノ如キモ固ヨリ同條第二項ニ含蓄シタルモノトス第三百九十七條ニハ單ニ辨

論中ニ發覺シタル條件云々トアリ附帶ノ犯罪事件ニ付キ豫審ヲ要スル場合ノ如キハ勿論ナル可シ

二 辨論中新ナル條件發覺シタル時但第三百九十七條ニハ辨論中ニ發見シタル條件ニ付キ豫審ヲ求ムルヲ得云々トアルニ因リ假令同一ノ犯罪事件ト雖モ新ニ發覺シタル點ニ付キ豫審ヲ求ムルヲ得ヘキハ判然タリ然ルニ第三百五十七條第二項ニ依ルニ豫審ヲ經サル犯罪事件ノ新ニ發覺シタル點ニ付キ豫審ヲ爲スヲ得ベキニ似タリ固ヨリ輕罪ニ付テハ新ナル條件ト雖モ成ル可ク公判判事ニテ其取調ヲ爲ス可シ然レモ警察上ノ手續ヲ要スルヲ及ヒ秘密ノ取調ヲ要スルヲ等ニ付テハ既ニ豫審ヲ經タルト否トヲ問ハズ其取調ヲ豫審判事ニ囑託スルヲ得ヘシ蓋シ既ニ豫審ヲ經タル事件ト雖モ新ニ發覺シタル點ニ付テハ仍ホ豫審ヲ經サルモノト看做スヲ得ヘシ

三 辨論中附帶ノ犯罪發覺シ又ハ新ナル條件發覺シタルト雖モ違警罪ノ如キハ豫審ヲ用ヒサルニ因リ公判判事自ラ其取調ヲ爲サル可カラズ

○辨論中附帶ニ非ツル犯罪別ニ發覺シタル場合ノ處分

- 一 本條ノ規則ハ同一ノ種類及ヒ輕キ種類ノ俱發罪ハ同一ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルノ原則ヨリ出タルモノトス又俱發犯罪ヲ同一ノ裁判所ノ管轄ニ屬シタルハ數罪俱發一ノ重ニ依テ罰スルト數罪同時ニ落着スルトノ便法ヨリ出タルモノトス蓋シ附帶犯罪ハ裁判所ニ於テ直ニ受理シ俱發犯罪ハ必ズ檢察官ヲ待テ受理ス故ニ檢察官ハ此便法却テ不便法ヲラサルヲ注意セサル可カラス
- 二 辨論中新ニ發覺シタル俱發犯罪ハ事件ノ輕重難易ニ從ヒ頗ル注意ス可キコトアリ第三本條ノ事件ヨリ重キ刑ニ該ル可キ犯罪發覺シタル事件ハ檢察官必ズ本條ニ從ヒ請求スルヲ怠ラサル可シ否カレム

必ス無用ノ手數ヲ要スルト無益ナル刑ヲ言渡スヲ免カレズ譬ハ
 死刑ニ該ル可キ被告人ナシテ暫時懲役等ニ服セシムルカ如キトア
 ルハ最モ不都合ナル可シ第二本案ノ事件ヨリ輕キ種類ノ犯罪發覺
 シタルキハ繁難ナラサル事件ヲ除クノ外檢察官本條ニ從ヒ請求セ
 サルヲ要ス何トナレハ刑ニ差異ナクシテ無益ノ手數ヲ盡シ同時
 裁判スルノ實益ナカル可シ第三本案ノ事件ヨリ重キ刑ニ該ル可キ
 輕キ刑ニ該ル可キトハ拘ハラス辨論中別ニ發覺シタル事件ニ付
 本條ニ從ヒ檢察官ノ請求アリタルキハ本案ノ辨論ヲ停止シ又ハ
 繼續スル限ア可シ
 三 重罪裁判所ニ於テ辨論中別ニ發覺シタル事件重罪ナルキハ通常ノ
 規則ニ從ヒ豫審ヲ爲シ別段公訴狀ヲ作り其他重罪ニ付キ定メタル
 一切ノ手續ヲ履行セサル可カラズ第三百九十七條第一項及ヒ本條
 ノ場合於テハ控訴裁判所ニテ起訴及ヒ豫審ノ手續ヲ爲ス可キ

- 可シ若シ別ニ發覺シタル事件輕罪ナルキハ檢察官其輕重難易ニ從
 ヒ豫審ヲ爲シ又ハ直ニ公判ニ付ス可キヲ請求ス可シ
- 四 輕罪裁判所ニ於テ辨論中別ニ發覺シタル事件重罪ナルキハ檢察官
 ノ請求ニ因リ第三百六十條ノ場合ト同一ノ處分ヲ爲ス可シ若シ輕
 罪ナルキハ檢察官其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ爲シ又ハ直ニ公判ニ付
 ス可キヲ請求ス可シ若シ違警罪ナルキハ直ニ公判ニ付ス可キヲ
 請求ス可シ
- 五 違警罪裁判所ニ於テ辨論中別ニ發覺シタル事件重罪又ハ輕罪ナル
 キハ檢察官ノ請求ニ因リ第三百三十七條ノ場合ト同一ノ處分ヲ爲
 ス可キヲ得ヘシ若シ違警罪ナルキハ檢察官ノ請求ニ因リ本案ノ事件
 ト同時ニ裁判ヲ爲ス可シ但違警罪ノ俱發ハ其刑ヲ併科スルヲ以テ
 同時ニ裁判ヲ爲スモ僅ニ手數ヲ省クノ便法ナルニ過キズ

○辨論中ナル法語ノ意義

一 第三百五十七條ハ公訴私訴ノ辯論手續ノ後ニ之ヲ掲載スルヲ以テ公訴私訴ノ辯論中何時ニテモ該條ノ規則ヲ履行スルニ妨ナキニ似タリ第三百九十七條ハ公訴ニ付キ事實ノ辯論終結ノ後ニ之ヲ掲載スルヲ以テ單ニ事實ノ辯論中ノ何時ニテモ該條ノ規則ヲ履行スルニ妨ナキニ似タリ第四百二條ハ裁判言渡ノ後ニ之ヲ掲載スルヲ以テ裁判言渡ヲ終ルマテ何時ニテモ該條ノ規則ヲ履行スルニ妨ナキニ似タリ實ニ辯論中ナル法語ノ廣狹ト箇條ノ位置ト共ニ立法官ノ旨趣穩當ナラサルヲ覺フ

二 第三百五十七條第三百九十七條第四百二條ニ定メタル規則タルヤ最モ必要ニシテ且裁判言渡アルマテ何時ニテモ爲スヲ得ヘカラサルノ手續ニ非ス然レトモ辯論終結ノ後其手續ヲ履行セント欲スルキハ新ニ開廷ノ手數ヲ爲サレ可カラス且辯論中ナル法語ハ公訴私訴ノ辯論終結ノ言渡マテニ止ルヲ以テ穩當ナルモノトス

第三百三十五條 犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ

於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡

ヲ爲ス可シ

第三百三十六條 被告事件違警罪ニシテ且証憑充分ナル

時ハ法律ニ從ヒ刑ニ言渡ヲ爲ス可シ

第三百三十七條 被告事件重罪又ハ輕罪ナル時ハ管轄違

ノ言渡ヲ爲シ其事件ヲ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ但

被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルヲ得

第三百五十八條 犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ

於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡

ヲ爲ス可シ

本條ノ場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言
渡ヲ爲スコシ
第三百五十九條 被告事件違警罪ナル時ハ終審ノ裁判言
渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタル時ハ釋放ノ言渡ヲ爲
ス可シ

第三百六十條 被告事件重罪ヲ經ル時ハ管轄違以言渡ヲ爲
シ若シ豫審ヲ經ル時ハ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ
爲スコシ但被告人勾留ヲ受ケタル時ハ勾引狀ヲ發スコ
シ
訴訟書類及ヒ證據物件ハ檢察官ヨリ之ヲ豫審判事ニ送
致スコシ

第三百六十一條 被告事件豫審ヲ經タル時ハ之ヲ其裁判
所ノ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲スコシ

會議局ニ於テ第三百五十三條 第二百五十五條ノ規則
言從ヒ取調ヲ爲シ被告人ヲ管轄裁判所ニ送付スルノ言
渡ヲ爲スコシ

第三百六十二條 會議局ノ言渡ニ因リ事件ヲ受理シタル
場合ニ於テ新ナル證據ヲ發見スルコトヲ見出シ其事件ヲ
重罪ト認メタル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スコシ

第三百六十三條 裁判管轄ヲ定メルノ訴ヲ爲スコシ
第三百六十四條 檢察官ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職
權ヲ以テ被告人ヲ其裁判所ニ監倉ニ留置スルノ言渡ヲ
爲スコシ得
又第三百十條以下ノ規則ニ從ヒ保釋ニ付キ判決ヲ爲ス
コトヲ得

第三百六十四條 被告事件輕罪ニシテ且證憑充分ナル時

法律ヨリ從刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

被告人禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ當然保釋責任ヲ

取消シタル者トス但上訴申更ニ保釋ヲ求ムルコト得

第四百條 被告事件重罪ニシテ且證憑充分ナル時法律

第三從刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第二百三十四條第三以下の場合ニ於テ免訴ノ言渡

ヲ爲シ且被告人保釋免訴可シ

第四百一條 犯罪ノ證憑充分ナル時ハ無罪ノ言渡ヲ

爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

又原被ノ要償ニ付キ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁判

言渡ヲ爲ス可シ

○裁判言渡ノ種類及ニ期限

一 刑ノ言渡ハ犯罪ノ證憑バキ者ハ言ヲ待タズ證憑ノ充分ナラザル者

ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ證憑ノ充分ナルハ裁判官

ノ判定ニ任スル雖モ刑事證據法ノ主義ニ基キ證憑ニ依ラスニテ有

罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス違警罪裁判所ニ於テハ有罪ノ證憑アリト

雖モ違警罪及ヒ直ニ裁判スルコトヲ得ヘキ輕罪ニ非レハ刑ノ言渡

ヲ爲スコトヲ得ス輕罪裁判所ニ於テハ輕罪ハ言ヲ待タズ違警罪ニ付

テモ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得第一輕罪違警罪俱發シタルハ上等ノ

裁判所併セテ之ヲ管轄スルハ第三十八條ニ明文アリ第二輕罪トシ

テ訴アリタル事件違警罪ニ歸シタルハ直ニ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ

得ヘキハ第三百五十九條ニ明文アリ第三公庭内ニ於テ犯シタル違

警罪モ亦直ニ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキハ第二百七十三條ニ明文

アリ如何ナル場合ニ於テモ輕罪裁判所ニ於テ爲シタル違警罪ノ裁

判ハ終審ナリトス重罪裁判所ニ於テハ重罪ハ言ヲ待タズ輕罪以下

二 付テモ直ニ刑ノ言渡ヲ爲スコト得第一重罪輕罪俱發シタルハ
 上等ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スルハ第三十八條ニ明文アリ第二輕
 罪ノ公判ニ付キ第三百五十九條ヲ明文アリテ重罪ノ公判ニ付キ輕
 下ノ事件ニ付キ直ニ刑ノ言渡ヲ爲ス可キノ明文ナキハ法律以律ノ
 疎漏ナルヲ免カレス第三公廷内ニ於テ犯シタル輕罪以下ノ事件ハ
 直ニ刑ノ言渡ヲ爲スコト得ヘキハ第二百七十三條ニ明文アリ
 二 無罪ノ言渡ハ犯罪ノ證據ナキ者ハ言ヲ待タズ證據ノ充分ナラサル
 者ニ付テモ之ヲ爲サシル可カラズ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ被告
 人ヲ放免ス可キハ言ヲ待タズ第三百三十五條第一項第三百五十八
 條第一項第四百一條第一項共ニ同文ナリ唯違警罪ニ付テハ勾留ス
 可カラサルヲ以テ放免ス可キコトナシ輕罪ニ付テハ勾留スルト勾留
 セルコトアルヲ以テ被告人勾留ヲ受ケタルハ放免ス可キノ明文
 ナリ重罪ニ付テハ必ス勾留ス可キヲ以テ必ス放免ス可キノ明文ナ

リ裁判ハ再セサルノ原則ニ因リ無罪ノ言渡確定シタルハ如何ナ
 ル證據アリト雖モ公訴既ニ消滅ス可キヲ以テ法官タル者宜ク注意
 ス可キコトアリ即チ檢察官ハ證據ノ不充分ナル可キ事件ニ付キ強テ
 起訴ヲ爲サシルヲ要ス何トナレハ豫審ニ於テ免訴ノ言渡アリタル
 事ハ新ナル證據アリト雖モ會議局ノ判決ヲ經サレハ更ニ起訴ヲ爲
 スコト得ス豫審判事ハ證據ノ不充分ナル事件ニ付キ強テ送付ノ言
 渡ヲ爲サシルヲ要ス何トナレハ公判ニ於テ無罪ノ言渡アリタルハ
 ハ假令新ナル證據アリト雖モ更ニ其取調ヲ爲スコト得サル可シ其
 被告人ニ不利益ナル處分ハ却テ社會ノ不利益ナル處分タルハ頗ル
 法律ノ妙用ナリトス
 三 免訴ノ言渡ハ犯罪ノ有無輕重ヲ判決スルコトヲ要セサル場合ニ於テ
 之ヲ爲ス可キモノトス第三百三十五條第二項第三百五十八條第二
 項第四百條第二項共ニ同文ナリ其被告人ヲ放免スルハ無罪ノ言渡

アリタル場合ニ同シ法律ニ明文ナシト雖モ犯罪ノ有無輕重ヲ判決スルコトヲ要セサル事件ニシテ免訴ノ言渡ヲ爲サスシテ單ニ棄却ノ言渡ヲ爲ス可キコトアリ即チ告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付キ告訴ナクシテ訴アリタル場合はナリ若シ此場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シタルキハ後ニ被害者ノ告訴アルモ確定裁判ニ依リ公訴既ニ消滅シタルヲ以テ更ニ訴ヲ爲スコトヲ得サル可シ

四 管轄違ノ言渡ハ單リ第三百三十七條第三百六十條以下ニ犯罪ノ種類ニ付テノ管轄違ノミヲ掲載シ其他ノ管轄違ヲ脱漏セリ抑モ管轄違ノ言渡ヲ爲スニ付キ注意ス可キハ若シ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニシテ檢察官ノ請求アリタルキハ如何ナル管轄違ト雖モ勾留狀ヲ發スルコト是ナリ即チ違警罪ノ公判ニ於テモ犯罪ノ種類ノ管轄違ニ付テハ第三百三十七條但書ニ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ルキノ明文アリ況シ輕罪以上ノ公判ニ於テ此處分ヲ爲スコトヲ得

ヘキハ言ヲ待タス豫審ニ於テハ如何ナル管轄違ト雖モ此處分ヲ爲スコトヲ得ヘキハ第二百二十八條第二項ノ法文ニテ判然タリ總テ管轄違ニ付テハ單ニ其裁判所ノ管轄ニ非サルコトヲ言渡スノミニテ別段其管轄裁判所ヲ定示スルニ非ス然レモ輕罪裁判所ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスルモ未ダ豫審ヲ經サルキハ豫審判事ニ送付スルコトヲ言渡ヲ爲シ若シ豫審ヲ經タルキハ其裁判所ノ會議局ニ送付スルコトヲ言渡ヲ爲ス可キコトヲ定ム第三百六十條第一項但書被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコト及ヒ同條第三項檢察官ヨリ訴訟書類及ヒ證據物件ヲ送致スルコトハ此二箇ノ場合共ニ同一ノ手續ナリトス但送付ヲ受タル豫審判事ハ通常ノ規則ニ從ヒ豫審ヲ終結シ會議局ニ於テハ別段判事一名ヲシテ通常ノ規則ニ從ヒ豫審ヲ爲サシメタル後訴訟書類及ヒ檢察官ノ意見書ニ依リ終結ノ言渡ヲ爲ス可シ若シ第三百六十條ニ從ヒ豫審判事ニ送付スルコトヲ言渡ヲ爲シタル後豫審判事仍

ホ輕罪トシテ輕罪裁判所ニ送付スルノ言渡アリタル場合ニ於テハ輕罪裁判所ニテ第三百六十一條ニ從ヒ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可シ若シ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲シタル後會議局ニテ仍ホ輕罪トシテ輕罪裁判所ニ送付スルノ言渡アリタル場合ニ於テハ輕罪裁判所ニテ其管轄裁判所ヲ定示スルコトヲ得ス故ニ新ナル證據アリテ事實ノ變更ス可キ場合ニ非ザレハ第三百六十二條ニ從ヒ單ニ管轄違フ言渡ヲ爲スニ過キス檢事ハ訴フ可キ裁判所ヲキテ以テ第五編第三章ニ從ヒ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可キコトヲ定ム然レモ是等ノ規則ハ萬一ノ場合ヲ慮リタルモノニシテ實際檢事ハ如何ナル場合ニ於テモ不當ナル送付ノ言渡ニ對シ豫メ上訴ヲ爲シ正當ナル管轄裁判所ニ訴ヲ移ス可キコトヲ怠ラサル可シ

五 私訴ノ言渡ハ重罪輕罪違警罪ニ拘ハラス第三百七條ノ規則ヲ除ク外權利義務ノ有無及ヒ訴訟ノ手續ハ總テ通常民事ノ規則ニ從フ

○裁判言渡後確定前ノ手續

第四百一一條ハ唯私訴ニ付テモ裁判言渡ヲ爲ス可キコトヲ注意シタル迄ナリト雖モ其文義頗ル穩當ナラズ

一 法律ニ明文ナシト雖モ控訴ノ期限内ハ裁判執行ヲ停止ス可キハ言ヲ待タス然レモ被告人ヲ勾留シ又ハ保釋責付ヲ取消ズノ言渡ハ其執行ヲ停止セサル可シ蓋シ公判ノ控訴ト豫審ノ故障ト其性質方法相似タルモノトス即チ第二百五十條ヲ參看ス可シ上告期限内モ亦裁判執行ヲ停止ス然レモ勾留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言渡ハ其執行ヲ停止セス即チ第四百十五條ニ明文アリ茲ニ一箇ノ注意ス可キコトアリ違警罪裁判所ニテ被告事件重罪又ハ輕罪ナリトスルキハ第三百三十七條但書ニ從ヒ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ヘキニ因リ上訴ノ期限内ハ被告人ヲ留置スルニ妨ナカル可シ然レモ輕罪裁判所ニテ被告事件重罪ナリトスルキハ第三百六十條第一項但書ニ從ヒ勾引

狀を發スルニ過キス若シ上訴ノ期限内管轄違ノ執行ヲ停止スルハ勾引狀ノ期限ト牴觸スルニ因リ重罪ノ被告人ト雖モ之ヲ留置スルコトヲ得サルニ似タリ蓋シ此場合ニ於テハ豫審判事ト會議局トト問ハス同一ノ裁判所内ニ在ルヲ以テ少シク常例ニ戻ルニ似タリト雖モ送付ヲ受テタル豫審判事又ハ會議局ニ於テハ直ニ其事件ニ着手シ又其着手シタル後ト雖モ上訴期限内ハ上訴スルコトヲ許サレ可カラス

二 裁判官ノ職權ハ事件ヲ受理スルニ始マリ裁判言渡ヲ爲スニ終ル然レモ被告人ヲ他ノ裁判所ニ送致ス可キ場合ヲ除クノ外被告人其裁判所附ノ監倉ニ在ルキハ保釋責付ニ付キ判決ス可キノ任アリ何トシテハ被告人ノ心術資力ノ有無保証ノ當否等ヲ鑑定スルハ被告人所在ノ地ノ裁判所ニ非サレハ之ヲ詳悉スルニ困難ナル可シ第三百六十三條第二項第三百六十四條第二項但書等ハ此原則ニ基キタル

第三百三十一條

呼出ヲ受ケタル被告人民事擔當人又ハ其代人出廷セサル時ハ檢察官及ヒ民事原告人ノ請求スル所ヲ聽キ關席裁判ヲ爲ス可シ
民事原告人出廷セサル時亦同シ

第三百五十四條

罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人又ハ第二百六十九條ノ規則ニ從ヒ關席裁判ヲ爲スコトヲ得可キ被告人其呼出ノ日時ニ出廷セサル時ハ關席裁判ヲ爲ス可シ

第四百四條

關席裁判ヲ爲スニハ裁判長書記ヲシテ公訴狀及ヒ必要ナリトスル豫審書類ヲ朗讀セシメ又原被證人ノ陳述ヲ聽ク可シ
檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ民事原告人ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

民事擔當人ハ答辨スルヲ得

○ 關席裁判

一 違警罪及ヒ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ關席裁判ハ呼出ヲ受ケタル日時ニ被告人出廷セズ又ハ代人ヲ差出サ、ルキハ直ニ之ヲ爲スルヲ得第三百三十一條ニ檢察官及ヒ民事原告人ノ請求スル所ヲ聽キトアルハ檢察官ノ求刑及ヒ民事原告人ノ要償ニ付テノ陳述ヲ謂フ關席裁判ヲ爲ス可キヤ否ノ意見ヲ聽クニ非ス然レモ檢察官及ヒ民事原告人ハ公判ヲ停止ス可キヲ求ムルヲ得ヘシ若シ公訴ニ付キ公判ヲ停止シタルキハ私訴ニ付テモ亦公判ヲ停止セサル可カラズ此場合ニ於テハ民事裁判所ニ私訴ヲ爲スヲ得ヘシ重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付テモ亦同シ

二 禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪及ヒ重罪ノ關席裁判ハ第二百六十九條ノ手續ヲ履行シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

三 關席裁判ノ手續ハ公訴ト私訴トヲ問ハス通常ノ規則ト搭別ナル差異アルヲナカル可シ故ニ第四百四條ノ規則ハ輕罪以下ノ關席裁判ニ付テモ亦少シク之ヲ斟酌シテ適用ス可シ同條第一項ニ豫審書類ヲ讀セシメトアルハ被告人出廷セサルニ因リ被告事件ヲ詳悉ス可キ爲メナリ但被告人ノ呼出シタル證人ノ陳述ハ之ヲ聽ク可シト朗雖モ辨護人ヲ用フルヲ許サス

第三百三十二條 關席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ關席シタル者又ハ其住所ニ之ヲ送達ス可シ

關席裁判ヲ受ケタル者故障ヲ爲サントスル時ハ言渡書ノ送達アリタルヨリ三日内ニ其申立書ヲ書記局ニ差出ス可シ

第三百三十三條 裁判所ニ於テハ先ツ故障ヲ申立ヲ受理

ス可キヤ否ヲ判決ス可シ若シ受理ス可キ者ハ判決シタル時ハ書記ヨリ故障アリタルヲ及ヒ其事件ヲ公判ニ付ス可キ日時ヲ故障ノ對手人ニ通知スル爲メ呼出狀ヲ送達ス可シ但其送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

又公判ニ付ス可キ日時ヲ其前日ニ故障ノ申立人ニ報知ス可シ

第三百三十四條 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ第三百二十六條ヨリ第三百三十條マテノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

其裁判ニ關席シタル者ハ故障ヲ爲スヲ得ス

第三百五十五條 關席裁判ニ關スル第三百三十一條ヨリ第三百三十四條マテノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

第三百五十六條 關席裁判ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケ

タル被告人ハ左ノ場合ヲ除クノ外刑ノ期滿免除ニ至ルマテ故障ヲ爲スヲ得

一被告人本案ノ裁判前豫メ裁判ス可キ事件ヲ申立タル時

二裁判言渡書ヲ本人ニ送達シタル時

三被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルヲ知リタルノ證アル時

第一ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ第二第三ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヲ知リタルヨリ三日内ニ故障ヲ爲スヲ得

第四百五條 關席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達ス可シ

第四百七條 闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヲ得但捕ニ就キタル時ハ十日内ニ故障ヲ爲ス可シ

第四百八條 故障ノ申立ハ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

重罪裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

第四百九條 闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲ス可シ

控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ク可

キノ言渡ヲ爲ス可シ

○闕席裁判言渡書ノ送達

一 公判ノ言渡ハ訴訟關係人中出席シタル者ニ付テハ言渡アリタルヨリ上訴ノ期限ヲ起算シ闕席シタル者ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ上訴ノ期限ヲ起算ス故ニ檢察官其他訴訟關係人ハ送達ヲ請求シタル後ニ非サレハ執行ヲ爲スヲ得ス

二 送達ヲ爲スハ書記ノ擔任ナルトハ總則第二十二條ニ於テ判然タリ故ニ檢察官其他訴訟關係人第三百三十二條第四百五條ニ從ヒ言渡書ノ送達ヲ請求スルハ裁判言渡アリタル後書記局ニ之ヲ爲サ、ル可カラス

三 重罪ト輕罪以下トヲ問ハス闕席裁判言渡書ノ送達ハ闕席人又ハ其住所ニ之ヲ爲サ、ル可カラス又本人ニ送達スルニ付テハ固ヨリ異論ナシト雖モ住所ニ送達スルニ付テハ到底總則第二十三條ノ規則

ニ從ハサル可カラス然レモ同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡スト能ハサル場合ニ於テ戸長ニ之ヲ渡スモ送達シタルモノト看做ス可カラズ是レ通常ノ送達ト異ナル所ナリ故ニ第三百三十二條第二項第四百五條ニ於テ特ニ本人又ハ其住所ニ送達ス可キト明示セリ

四 闕席人ニ付テノ言渡書ノ送達ハ對審人ニ付テノ裁判言渡ト同一ナリトス故ニ言渡書ノ送達ナキモハ其言渡ノ確定セサルノミナラス刑ノ期滿免除ヲ待タスシテ公訴ノ期滿免除ヲ得ヘキモノトス

○闕席裁判言渡ニ對スル故障ノ期限

一 違警罪及ヒ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ闕席裁判ニ對スル故障ノ期限ハ闕席人訴訟アリタルト知ルト知ラサルトニ拘ハラス三日ナリトス蓋シ是等ノ刑ハ輕微ナルニ因リ闕席裁判ヲ爲スニ付キ第二百六十九條ノ規則ヲ適用スルヲナク且裁判言渡書ヲ本人ニ送達セスト雖モ住所ニ送達シタルモハ僅ニ三日ヲ以テ直ニ確定ス可キナ

リ然ルニ微罪ト雖モ私訴ニ付テハ意外ノ金額ヲ要求スルヲナシトセズ是亦三日ヲ以テ確定ス可キニ因リ遠國ニ旅行シタル被告人ハ不當ノ賠償ヲ擔當ス可キトアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ被告人ノ親屬又ハ雇人ヨリ事情ヲ申立テ公判ノ延期ヲ求メ裁判所ニ於テハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ許ストアル可シ

二 禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ闕席裁判ニ對スル故障ノ期限ハ闕席人訴訟アリタルト知ラサル場合ハ刑ノ期滿免除ノ期限ト同一ナリト雖モ闕席人訴訟アリタルト知リタル場合ハ其期限三日ナリトス蓋シ訴訟アリタルモハ裁判言渡アル可キト知リタル者ト看做サ、ル可カラス第三百五十六條ニ依ルモハ第一被告人本案ノ裁判前豫メ裁判ス可キ事件ヲ申立タル時トアリ豫メ裁判ス可キ事件ヲ申立タルトハ附帶ノ事件ニ付キ裁判ヲ求メタルヲ謂フ若シ其申立ナキモハ本案ノ辯論ニ取掛リタルヲ以テ制限ト爲サ、ル可カラス

第一ノ制限ハ頗ル寛ナルヲ覺フ何トナレハ本人自ラ呼出狀ノ送達ヲ受ケタル時又ハ本人自ラ出廷シタル場合ハ既ニ訴訟アリタルヲ知リタル者ト看做スモ妨ナキニ似タリ然レモ法律ノ明文ヨリ嚴ニスルハ仮令條理ニ適スルモ之ヲ許サル可シ第二裁判言渡書ヲ本人ニ送達シタル時トアリ單ニ其住所ニ送達シタルノミヲ以テ本人ハ訴訟アリタルトヲ知リタル者ト看做ス可カラサルハ言ヲ待タサルナリ第三被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルトヲ知リタルノ證アル時トアリ裁判執行トハ被告人捕ニ就キタル場合ヲ謂フ唯罰金若クハ要償ノ言渡等ヲ執行ス可キ爲メ被告人ノ財産差押ヲ爲シ又ハ資力限身代限等ノ處分ヲ爲シ是等ノ處分アリタルトヲ知リタルト看做ス可キ證アルノミニテハ頗ル不充分ナリトス故障ノ期限ハ言渡書ノ送達アリタルヨリ之ヲ起算ス可シト雖モ豫メ訴訟アリタルトヲ知ラスシテ言渡書ノ送達アリタル後之ヲ知リタルト

ハ始テ知リタルヨリ其期限ヲ起算ス

三 重罪ノ闕席裁判ニ對スル故障ノ期限ハ被告人捕ニ就キタル場合ハ十日ナリトス其十日ノ期限ハ被告人ヲ裁判所々在ノ地ノ監倉ニ引致シタルヨリ之ヲ起算ス其他ノ場合ハ刑ノ期滿免除ノ期限ト同一ナリトス蓋シ刑ノ期滿免除ノ期限ハ刑ノ言渡確定シタルニ非サレハ之ヲ適用シ難シ何トナレハ刑ノ期滿免除ヲ得ルハ証憑ノ湮滅スルニ非スシテ單ニ記念ノ消散スル一点ニ在リ社會ハ未タ刑ノ言渡確定セサル者ヲ犯人視ス可カラス犯人視セサル前ニ於テ記念ノ消散ス可キ理アラシキ故ニ闕席裁判言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ヲ得ルヨリモ公訴ノ期滿免除ヲ得ルヲ以テ相當ナリトス然レモ法文ハ之ニ反ス又仮令刑ノ期滿免除ヲ得ルモ其期限ハ言渡書ノ送達ヨリ之ヲ起算ス可キニ似タリト雖モ其送達アリタルトハ言渡ノ効力既往ニ溯ルヲ以テ刑法第六十一條ニ裁判言渡ヨリ之ヲ起算ス

可キヲ定ムルモノトス刑ノ言渡確定シタル場合モ亦同シ

闕席裁判ニ對スル故障ノ手續

一 故障ヲ爲サントスル者ハ其期限内ニ申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ若シ重罪事件ニシテ重罪裁判所閉廳ノ後ナルキハ次會ノ閉廳中ト雖モ管轄控訴裁判所ノ書記局ニ申立書ヲ差出ス可シ第四百九條第一項ニ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後トアルハ閉廳中トノ文義ニ非ス畢竟次會ノ重罪裁判官ハ必スシモ原裁判官ナルニ非ス闕席裁判ノ書類モ亦控訴裁判所ニ藏置ス可キヲ以テ此便法ヲ設ケタルモノトス

二 第三百三十三條第一項第四百八條第二項以下ニ故障ノ申立ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ先ツ之ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決シ云々トアリ頗ル困難ナル法文ナリト雖モ故障ノ原由ハ豫メ之ヲ申立ツルニ及ハス又之ヲ判決スルヲ要セサルニ因リ唯故障ノ期限又ハ第三百五

十六條ニ定メタル三箇ノ場合及ヒ第四百七條但書ニ定メタル場合等ニ付テ先ツ故障ノ申立ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決スルヲ謂フ其判決ノ方法ハ大審院願訴局ノ手續ト同一ニシテ對手人ト對審セシムルヲ要セス公廷ニ於テ故障申立人ノ陳述及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決ス可シ裁判所ニテ故障ヲ受理セサルノ言渡アリタル場合ニ於テ申立人ヨリ上訴ヲ爲シタルキハ通常ノ規則ニ從ヒ對手人其上訴ニ關係セサルヲ得ス民事原告人ノ如キハ受理不受理ノ判決ニ干預スルヲ得サルヲ以テ私訴ノ本案辨論前故障受理ス可カラサルノ申立ヲ爲スヲ得ヘシ

三 故障ヲ受理ス可キノ判決アリタル後故障ノ裁判ヲ爲スハ違警罪輕罪重罪各通常ノ規則ニ從フ唯訴訟關係人呼出ノ猶豫ハ對手人ニシテ之ヲ與フ可キモノトス第三百三十三條第一項對手人ニ送達ス可キ呼出狀ノ規則ハ重罪事件ニ關スル私訴ノ對手人ニモ之ヲ適用セ

サル可カラス然レモ呼出ノ猶豫期限ハ第三百八十五條證人呼出ノ猶豫期限ト牴觸ス可カラサル爲メ三日ヨリ少カル可カラス故障ノ申立人ヲ呼出スニハ猶豫ノ期限ヲ與フルニ及ハスト雖モ第三百三十三條第二項ニ從ヒ公判ノ前日マテニ呼出狀ヲ送達セサル可カラス若シ故障申立人重罪ノ被告人ナルキハ公訴狀ノ送達ヨリ五日ノ猶豫ヲ與フ可キハ言ヲ待タサルナリ

四 闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後其管轄控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲シ受理ス可キノ判決アリタルキハ第四百九條第二項ニ從ヒ其事件ヲ原重罪裁判所ニ移シテ更ニ裁判ヲ受ケシメ又ハ控訴裁判所々在ノ地ノ重罪裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムルモ妨ナカル可シ蓋シ重罪裁判所ハ管轄控訴裁判所ニ開廳シ且控訴裁判所ノ官吏ヲ以テ構成スルヲ本則トス若シ輕罪ノ被告人ナルキハ管轄輕罪裁判所ニ移シテ更ニ裁判ヲ受ケシメ又ハ控訴裁判所ニ於テ直ニ裁判ヲ受ケシムルヲ得

五 第三百三十四條末項ニ故障ノ裁判ニ闕席シタル者ハ故障ヲ許サ、ルヲ定ム蓋シ前闕席裁判ニ闕席セサル者ニモ適用ス可キ法文ナリトス此規則ハ重罪事件ニ關スル民事原告人民事擔當人ニ之ヲ適用スルモ妨ナキニ似タリ然レモ重罪被告人ニ之ヲ適用ス可カラス何トナレハ輕罪ニ付テハ被告人訴訟アリタルヲ知ルト否トニ付キ故障ノ期限ニ差異アリト雖モ重罪ニ付テハ被告人訴訟アリタルヲ知ルト否トニ付キ故障ノ期限ニ長短ナキヲ以テ判然タル可シ又闕席裁判ヲ受ケタル者ハ故障ヲ爲サスシテ直ニ上告ヲ爲スヲ得スト雖モ第三百三十九條第一項ニ從ヒ直ニ控訴ヲ爲スヲ得此規則ハ故障ノ裁判ニ闕席シタル者ニモ亦之ヲ適用スルヲ得ヘシ

第三百三十八條 違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴スルヲ得

- 一 被告人ハ拘留ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時
 - 二 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上治安裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時
 - 三 檢察官其他訴訟關係人ハ上ニ記載シタル原由アラサル時ト雖モ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時
- 第三百六十五條 檢察官其他訴訟關係人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シ控訴裁判所ニ控訴スルヲ得
- 一 檢察官ハ無罪免訴又ハ刑ノ言渡アリタル時但違警罪事件トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時
 - 二 被告人ハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ

受ケタル時

- 三 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上始審裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時
- 四 檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

○控訴

- 一 控訴ハ豫審ノ故障ト均ク事實ノ覆審ヲ求ムル上訴ナリトス但違警罪輕罪ノ公判ニ限ル
- 二 控訴ハ公判ノ手續ニ對スルモノ有リ又ハ本案ニ對スルモノ有リ手續ニ對スル控訴ハ第二百七十九條第三百三條ニ定メタル場合ヲ除クノ外本案ノ裁判言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス本案ニ對スル控訴ハ第二百七十七條ニ從ヒ辨論中ト雖モ何時ニテモ之ヲ爲スヲ得

三 辨論中ノ控訴ハ必ス法律ニ從ヒ其理由ヲ申立テサル可カラズ裁判言渡後ノ控訴ハ第三百三十八條第一第二ノ場合及ヒ第三百六十五條第一第二第三ノ場合ノ如キハ其理由ヲ申立ルニ及ハス但第三百六十五條但書ハ此限ニ在ラス第三百三十八條第三ノ場合及ヒ第三百六十五條第四ノ場合ノ如キハ必ス其理由ヲ申立サル可カラス

○控訴ヲ爲スヲ得ヘキ場合

一 辨論中控訴ヲ爲スヲ得ヘキ場合ハ第二百七十七條第二百七十八條第二百七十九條第二百八十條第三百三條ニ於テ説明シタルヲ以テ茲ニ説明セント欲スルハ裁判言渡後控訴ヲ爲ス可キ場合ナリトス裁判言渡後控訴ヲ爲ス可キ場合ハ人ニ付テ定ムルアリ理由ニ付テ定ムルアリ人ニ付テ定メタル場合ノ控訴ハ本案ノ事件ニ付キ新ニ辨論ヲ爲シ理由ニ付テ定メタル場合ノ控訴ハ先ツ其理由ニ關スル部分ニ付キ新ニ辨論ヲ爲ス可シ

二 人ニ付テ控訴ヲ爲ス可キ場合ヲ定メタルハ第一檢察官ハ第三百六十五條ニ依ルニ違警罪ヲ除クノ外如何ナル言渡アリタル場合ト雖モ控訴スルヲ許セリ此規則ハ違警罪ノ公判ニ適用スルヲ得ス蓋シテ微罪ニ付テハ假令少シク手續ニ不服ナル點アルモ被告人自ラ満足スルキハ強テ覆審ヲ求ムルノ利益ナカル可シ第二被告人ハ輕罪ノ公判ニ付テハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外禁錮ト罰金トヲ問ハス刑ノ言渡アリタルキハ總テ控訴ヲ許セリ然レモ違警罪ノ公判ニ付テハ拘留ノ言渡アリタル場合ノミ控訴ヲ許セリ蓋シテ科料ノ言渡ニ對シ覆審ヲ求ムルモ亦實益ナカル可シ佛國治罪法ニ於テモ五フランク以下ノ罰金ニ付テハ控訴ヲ爲スヲ許サス第三民事原告人被告人民事擔當人ハ私訴ニ付キ要償ノ金額及ヒ言渡ノ金額通常民事ニ付テ其裁判所ニ屬スル終審ノ金額ニ超過シタル場合ニ於テ控訴ヲ許セリ但要償ノ金額終審ノ金額ヲ超過スルモ言渡ノ金額終審

ノ金額ヲ超過セサル場合ハ民事原告人ニ非サレハ控訴スルヲ得
サル可シ法文ニテハ言渡ノ金額終審ノ金額ヲ超過シタル場合ノミ
控訴ヲ許ス可キニ似タリ文ヲ以テ意ヲ害スル勿レ

三 原由ニ付テ控訴ヲ爲ス可キ場合ヲ定メタルハ管轄違越權擬律ノ錯
誤及ヒ無効ノ記載アル規則ニ背キタルト是ナリ蓋シ第一管轄違ヲ
原由トシテ控訴アリタルハ其原由ノミニ付キ新ニ辨論ヲ爲サシ
メ之ヲ判決ス可シ第二越權ヲ原由トシテ控訴アリタルハ先ツ越
權アルヤ否ニ付キ辨論ヲ爲サシメ若シ越權アリト判決シタルハ
本案ノ事件ニ付キ新ニ辨論ヲ爲サシム可シ但越權トハ爲ス可カラ
サルヲ爲シタルヲ謂フ然レモ爲ス可キヲ爲サ、ルニ因リ異議
ヲ申立テタルニ其申立ヲ棄却シタルハ亦越權ト看做スヲ得ヘ
シ第三擬律ノ錯誤ヲ原由トシテ控訴アリタルハ法律ノ適用ニ付
キ新ニ辨論ヲ爲サシメ之ヲ判決ス可シ第四無効ノ記載アル規則ニ

背キタルヲ原由トシテ控訴アリタルハ先ツ其規則ニ背キタル
ヤ否ニ付キ辨論ヲ爲サシメ若シ之ニ背キタルモノト判決シタルハ
ハ本案ノ事件ニ付キ新ニ辨論ヲ爲サシム可シ但無効ノ記載アル規
則トハ第六條第二百三十六條等ノ如キヲ謂フ

第三百三十九條 控訴ヲ爲サントスル者ハ原裁判所ノ書
記局ニ其申立書ヲ差出ス可シ但其申立ノ期限ハ對審裁
判ニ付テハ言渡ヨリ三日内又闕席裁判ニ付キ故障アラ
サル時ハ本人又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アリタルヨリ
五日内トス
控訴ヲ爲スノ申立アリタル時ハ書記ヨリ其旨ヲ對手人
ニ通知ス可シ

第三百四十條 訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ檢察官ヨリ控
訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ之ヲ送達ス可シ

若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ對手人ナル時ハ控訴ヲ受
ク可キ裁判所ノ檢察官ニ其意見書ヲ差出ス可シ
第三百六十六條 控訴ハ裁判言渡アリタルヨリ五日内ニ
之ヲ爲スヲ得

闕席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時
ニテモ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スヲ得但第
三百五十六條ノ場合ニ於テハ五日内ニ之ヲ爲ス可シ
第三百六十七條 公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴アリタル場
合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ檢察官ヨリ之ヲ控
訴裁判所ノ監倉ニ移ス可シ

○控訴ノ期限

一 控訴ハ豫審ノ故障ト均シク事實ノ覆審ヲ爲ス可キモノトス然ルニ
故障ヲ爲スニハ申立書ヲ差出スノ期限ト趣意書及ヒ答辨書ヲ差出

スノ期限トチ定メ控訴ヲ爲スニハ單ニ申立書ヲ差出スノ期限チ定
ムル而已蓋シ故障ハ事實ノ覆審ト雖モ書類裁判ナルチ以テ趣意書
及ヒ答辨書アルチ要スト雖モ控訴ハ對審裁判ナルチ以テ申立書チ
要スル而已其申立書ニハ人ニ付テ控訴ヲ爲スヲ得ヘキ場合ナル
チハ唯原裁判ニ不服ナルチ以テ控訴ヲ爲ス可キヲ記載シ原由ニ
付テ控訴ヲ爲スヲ得ヘキ場合ナルチハ云々ノ原由ニ付キ控訴ヲ
爲ス可キヲ記載シ必スシモ其理由チ明示スルニ及ハス

二

對審裁判ニ對スル控訴申立ノ期限ハ言渡ヨリ之ヲ起算シ闕席裁判
ニ對シ故障ヲ爲サスシテ直ニ控訴ヲ爲ス可キハ故障ヲ爲ス可キ
日ヨリ之ヲ起算ス第三百六十六條第二項ニ闕席裁判ヲ受ケタル者
ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直ニ控訴
ヲ爲スヲ得トアリ是レ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノミニシテ
輕罪ト雖モ罰金ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ此限ニ在ラス

○原裁判所ニテ控訴ノ申立ヲ受ケタル後ノ手續

- 一 控訴ノ申立人申立書ヲ書記局ニ差出シタルハ書記ヨリ速ニ對手人ニ控訴アリタルコトヲ通知ス可シ若シ原由ニ付テ控訴ヲ爲シタルハ其原由ヲモ通知セサル可カラズ
- 二 書記ハ對手人ニ通知ヲ爲シタル後對手人ヨリ差出シタル受取證書ニ一切ノ訴訟書類ヲ添ヘ之ヲ其裁判所ノ檢察官ニ送致シ檢察官ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ヲ書記局ニ之ヲ送致ス可シ若シ被告人現ニ勾留ヲ受ケタルハ同時ニ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移サ、ル可カラズ又檢察官控訴ノ關係人ナルハ其意見書ヲ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ檢察官ニ差出サ、ル可カラズ其意見書ニハ控訴ノ辨論ニ必要ナル條件及ヒ注意ス可キ條件ヲ記載ス可シ固ヨリ公然控訴ノ裁判上ニ採用ス可キモノニ非ス

第三百四十一條 控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ於テハ書記局

ヨリ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ
 呼出狀ヲ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ
 證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ
 第三百四十三條 控訴ニ係ル事件ハ輕罪ノ裁判ヲ爲スニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判ス可シ
 檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル證人又ハ始審ニ於テ陳述シタル證人ヲ呼出ス
 得ス

第三百六十八條 第三百三十九條ヨリ第三百四十二條マテ及ヒ第三百四十四條ノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

○控訴ノ裁判ニ關スル手續

一 控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ於テ書記控訴書類ヲ受取タルキハ速ニ之ヲ檢事長ニ差出シ檢事長ハ其事件ヲ刑事件名簿ニ登記ス可キヲテ請求スル爲メ之ヲ裁判所長ニ送致ス可シ但第三百四十條ニ從ヒ原裁判所ノ檢察官ヨリ差出シタル意見書ハ之ヲ送致スルニ及ハス

二 控訴裁判所長ハ控訴書類ヲ一閱シタル後書記ヲシテ其事件ヲ刑事件名簿ニ登記セシメ掛リ判事ヲ指定ス可シ掛リ判事ハ事件ノ順序ニ從ヒ開廷ス可キ爲メ書記ヲシテ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發ス可シ檢事長ニモ亦開廷ヨリ二日前其旨ヲ通知ス可シ蓋シ法律ニ明文ナント雖モ輕罪ノ控訴裁判官ハ三名以上ナルヲ以テ豫メ其中ヨリ專任判事一名ヲ命シ報告書ヲ作ラシメ公廷ニ於テ辯論前之ヲ朗讀シ又ハ陳述セシムルハ最モ簡便ナル方法ナル可シ但報告書ヲ作ラサルキハ豫メ之ヲ檢察官其他訴訟關係人ニ送致セサル可カラス

三 被告人證人呼出ノ猶豫期限ハ通常輕罪ノ公判ト異ナルヲナシ然レモ控訴ハ覆審ナルヲ以テ成ル可ク不用ナル重複ノ手續ヲ省ク爲メ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ呼出スヲ得ス其允許ヲ得ルハ必スシモ開廷ノ前後ニ拘ハラサル可シ又控訴ノ裁判手續ハ大概通常輕罪ノ公判手續ニ依ラサル可カラス故ニ第三百四十三條ノ規則ハ盡ク輕罪ノ控訴ニ付キ之ヲ適用ス可キモノトス然ルニ第三百六十八條ニ故サラニ第三百四十三條ヲ適用ス可キヲ脱漏シタルハ頗ル法律ノ不注意タルヲ免カレス

第三百四十二條 控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルマテ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲スヲ得但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ルヲ得

○附帶ノ控訴

一 附帶ノ控訴トハ控訴申立ノ期限經過シタル後控訴ノ對手人ヨリ申

立人ノ控訴ニ附帶シテ申立ツル控訴ヲ謂フ但附帶ノ控訴ト雖モ第
三百三十八條第三百六十五條ノ制限ニ從ハサル可カラス若シ輕罪
ノ控訴ニ付キ專任判事ヲ命シタルモ其附帶ノ控訴ニ付テモ亦同
一ノ專任判事ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトアル可シ

二 附帶ノ控訴ハ控訴ノ辨論終結マテ何時ニテモ申立書ヲ差出シ又ハ
公廷ニ於テ直ニ口述ヲ以テ其申立ヲ爲スコトヲ得附帶ノ控訴ノ對手
人ハ第三百四十一條第二項ニ從ヒ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得ヘシ
又控訴ハ事實ノ覆審ナルヲ以テ原裁判所ニ於テ申立テサル事實及
ヒ證據ト雖モ其取調ヲ爲スコトヲ得此場合ト雖モ對手人ハ答辨ノ爲
メ相當ナル猶豫期限ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第三百四十四條 控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判
言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シ更ニ裁判
言渡ヲ爲ス可シ

被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑
ヲ言渡スコトヲ得ス
私訴ニ付テノ控訴ノ裁判ハ通常民事ノ規則ニ從フ
第三百六十九條 輕罪裁判所檢事ノ控訴又ハ檢事長ノ附
帶ノ控訴アリタル場合ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトス
ル時ハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ會議局ニ於テ重罪
裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ

○控訴ノ判決

一 控訴ハ事實ノ調直ト雖モ公然ノ秩序ニ關スル條件ヲ除ク外控訴
アリタル條件ニ關スル部分及ヒ其部分ノ不當ナル影響ヲ受ケタル
部分ニ非サレハ其取調ヲ爲スコトヲ得ス又其取調ニ係ル部分ト雖モ
原裁判言渡ノ全部幾部ヲ採用シ又ハ之ヲ取消シ更ニ言渡ヲ爲スコ
トヲ得其控訴ニ係ラサル部分ハ言ヲ待テテ控訴ニ係ル部分ト雖モ原

裁判言渡ヲ採用シタル場合ニ於テ其言渡ノ効力ハ既往ニ溯ルモノトス

二 控訴ノ裁判ニ於テ管轄違無罪免訴若クハ刑ノ言渡及ヒ私訴ノ言渡ヲ爲スハ總テ輕罪公判ノ手續ニ准ス如何ナル場合ト雖モ被告事件ヲ重罪ナリトスルキハ既ニ豫審ヲ經タルト否トヲ問ハス其裁判所ノ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可シ會議局ニ於テハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ取調ヲ爲シ相當ノ言渡ヲ爲ス可シ

三 刑ノ錯誤ハ公ケノ秩序ニ關スルヲ以テ其錯誤ノ點ニ關係ナキ場合ト雖モ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ取消ス可キ得ヘシ然レモ被告人ノ控訴ヲ爲シ檢察官ヨリ附帶ノ控訴ヲモ爲サル場合ニ於テハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡ス可キ許サス畢竟其刑ヲ重クス可キトハ刑ノ輕カラシムヲ欲スル被告人ノ控訴ヨリ發見シタルニ因リ既ニ前刑ヲ以テ甘シタル社會ハ再ヒ之ヲ重クスルノ念アル可カラズ

此場合ニ於テハ檢察官ヨリ刑ノ輕キヲ理由トシテ上告ヲ爲ス可キ得サルハ言ヲ待タズト雖モ裁判言渡書ニハ相當ノ刑ヲ適用シ而シテ原刑ヲ執行ス可キトヲ明示ス可シ此規則ハ總テ上告ノ判決ニ付テモ亦之ヲ適用スルヲ得ヘシ

第三百四十五條 第三百三十一條以下ノ規則ハ控訴ノ關席裁判ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第三百七十條 控訴ノ關席裁判及ヒ其故障ニ付テハ始審ノ關席裁判及ヒ其故障ニ付キ定メタル規則ニ從フ

○控訴ノ關席裁判及ヒ其故障

一 控訴ノ關席裁判ハ始審ノ關席裁判ノ規則ニ從フ可キヲ以テ別段說明ヲ要セス但被告人自ラ控訴ヲ爲シ自ラ關席シタルキハ其控訴ノ効ナキヲ以テ之ヲ棄却スルヲ得ヘシ其棄却ノ言渡ニ對シテハ故障ヲ爲ス可キ得ス

二 控訴ノ闕席裁判ニ對スル故障モ亦始審ノ闕席裁判ニ對スル故障ノ規則ニ從テ可キヲ以テ別段説明ヲ要セス但輕罪ノ被告人始審ノ裁判ニ闕席シ檢察官ヨリ控訴ヲ爲シタル場合ヲ除ク外第三百五十六條ノ規則アルニ拘テラズ闕席裁判言渡書ヲ送達シタルヨリ三日内ニ非サレテ故障ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ始審ノ裁判ニ出廷シテ被告人ハ訴訟ヲ知ラサルノ辨解ナカル可シ

第三百四十六條 檢察官其他訴訟關係人ハ違警罪事件ノ終審ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條 檢察官其他訴訟關係人ハ輕罪裁判所ノ終審ノ對審裁判言渡及ニ控訴裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三條 檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百六條 闕席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シテハ檢察官ニ非サレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ノ裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

○終審ノ裁判言渡ニ對スル上告

一 一ニノ例外ヲ除クノ外違警罪及ヒ輕罪ノ公判ハ始審ナルヲ以テ控訴裁判ヲ經サレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス重罪ノ公判ハ終審ナルヲ以テ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

二 上告ハ對審裁判ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ闕席裁判ヲ受ケタル者ハ事實ヲ盡スコトヲ得ス事實ヲ盡サスシテ法律ノ裁判ヲ求メシトスルハ裁判ノ旨趣ニ反ナルモノトス但闕席裁判トハ闕席シタル者ノミニ對スル名義ニテ出廷シタル者ニ付テハ如何ナル場合ト雖モ對審裁判ナリトス故ニ公判ノ裁判ニ付キ被告人闕席シタリ

ト雖モ檢察官ハ上告ヲ爲スヲ得又私訴ノ裁判ニ付キ闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル訴訟關係人ハ總テ上告ヲ爲スヲ得ヘシ第四百六條第一項ニハ刑ノ言渡ニ限リ第二項ニハ民事原告人民事擔當人ニ限リタルハ法文ノ完全ナラサルヲ覺フ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including names like 横田國臣 and 高瀬四郎）

明治十三年九月二日版權免許
同十五年三月出版

定價金壹圓

口述

大分縣平民

横田國臣

東京神田區今川小路
三丁目六番地

東京府平民

高瀬四郎

東京麹町區飯田町
丁目十六番地

筆記
兼出版人

官版刑法治罪法發賣取扱所

原亮三郎

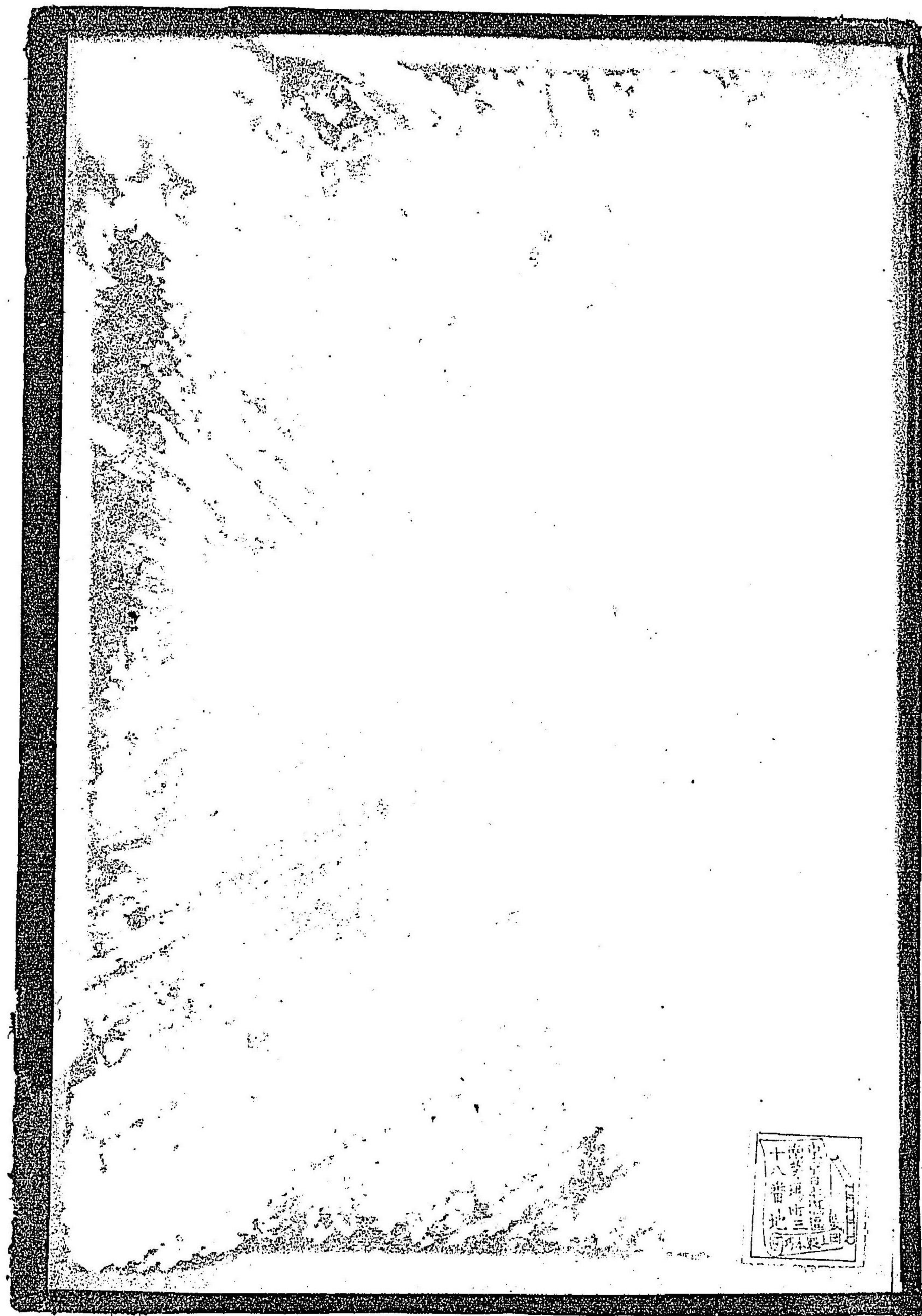
東京日本橋區本町三
丁目十七番地

發兌

賣捌人

金港堂

大坂
神戶
前橋
上州
同高崎



南京
三
十八
番
地



291029

